

2023年4月25日

生成系 AI（人工知能）の利用にあたって

立命館大学教育学部

近年、急速に AI 技術が進化したことにより、多くの業種・業界において人工知能を活用した様々なサービスや事業が展開されています。AI の活用は、教育の世界においても無縁ではなく、既に教育・学修の様々な場面でその成果を活用した教育実践が行われています。

立命館大学では、学園の中期計画である「学園ビジョン R2030 チャレンジ・デザイン」が 2021 年度から始動し、次世代研究大学の実現と創発性人材の育成を政策目標に掲げ、教育・研究活動の DX プラットフォームの構築を目指しています。教育・研究 DX を組織的に推進し、チャレンジ・デザインの具体化を推し進める中で、既にテクノロジーを駆使した様々な教育実践やプロジェクトが行われています。その中にはニューラル機械翻訳など生成系 AI の活用も含まれています。新しいテクノロジーの可能性と限界性、あるいは功罪を見極めながら、教育研究機関である大学には、教育における探究力の向上と研究の発展に寄与する適切な利活用の方法を積極的に模索することが求められていると考えています。

テクノロジーの進展が加速度的に進む今日において、創出される新しいテクノロジーはメリットとデメリットが表裏一体となっており、どちらか一方のみを選択的に享受あるいは排除することはできません。したがって、生成系 AI についても、教育・研究の健全な発展に向けて活用していくには、利用する側がそれらの特性を十分に理解したうえで、適切に対応できるリテラシーが求められます。現状においては、個人情報の漏洩や意図せぬプライバシーの侵害、学修プロセスが阻害される危険性もあり、それらは大学としても防がなければなりません。

大学は学問を追究し真理を探究する場です。様々な情報に溢れた社会において、何を学び・研究したいのかを自身で考え他者と協働し判断することが求められます。この間、生成系 AI の急速な発展は、大学教育や学びのあり方自体への問いとして受け止めています。生成系 AI の出力した情報についても、これまでの文献調査やインターネットでの情報検索以上に内容を検討、吟味し、その情報の正当性や妥当性を検証するプロセスが不可欠です。立命館大学では、このような AI リテラシーの醸成に努めるとともに、新たなテクノロジーを適切に活用しながら、学び続ける主体としての学生を育成していきます。

テクノロジーの進展を考えると、生成系 AI の使用そのものを完全に禁止することは現実的ではありません。したがって、生成系 AI の活用にあたっては、教育・学修の注意事項・留意事項として学生及び教員に向けて周知を図っていくとともに、教育 FD（ファカルティ・ディベロップメント）※として活用できる授業実践や教育モデルの提案など、本学の教育・学修支援センターと連携をはかり、学生・教員向けのサポートや情報を随時提供します。

※FD：本学では教育・学修支援センターを中心に授業・教育方法等を改善し、向上させるための組織的な取組を推進しています。

学修における生成系 AI 利用に関する注意事項（学生）

○ 生成系 AI について

生成系 AI とは、大量のデータを機械学習することで、画像や文章、音声、プログラムコード、構造化データ等の多様なメディアに対して、さまざまなコンテンツやアイデアを自動的に生み出すことができる AI（人工知能）のことです。膨大なデータを学習した機械学習モデルによって、人間が作成するような文章や画像などを生成することができます。

生成系 AI を活用することで、人間のようにさまざまな課題に対応することが期待される一方で、サイバーセキュリティ上の情報漏洩等の問題や社会的な法制度もまだ整備されていない状況です。以下の注意事項や留意事項を参考に生成系 AI の特性を理解したうえで、適切に対応することが必要です。生成系 AI のあり方については、現在、それぞれの学問分野によって適切な利用方法に差異があります。授業内で指示がある場合は、その指示に従ってください。

<注意事項等>

- 生成系 AI に入力（送信）した情報は、蓄積され学習される、また、他者からその情報を引き出され、利用される可能性があるという認識を持って下さい。個人情報や秘匿性の高い情報、未発表の論文（卒業論文およびその草稿等）や研究データ等を入力することは非常に危険ですので、安易に入力（送信）しないように注意してください。
- AI が出力する情報には誤った情報も含まれていることも少なくありません。AI が出力した情報を鵜呑みにすることなく、自分自身でその正確性を確認することが不可欠です。
- 大学における論文、レポート等で重要なのは、自身の考えや意見などの独創的な着眼点です。生成系 AI の出力した情報は、言うまでも無く自分自身の考えや成果ではありません。これまでの文献調査やインターネットでの情報検索以上に内容を吟味し、その情報の正当性や妥当性を検証するプロセスが不可欠です。あくまで自分自身の答えを導き出す過程のみで使用し、自身の深い学びにつなげていくことが必要です。
- 生成系 AI による回答をそのまま試験・レポート課題等に用いることは、著作権侵害等の研究倫理上の問題につながる可能性があるだけでなく、皆さん自身の学びや成長につながりません。また、使用の程度や内容によっては、盗作・剽窃と見なされ、不正行為として学生懲戒の対象となる可能性があります。この点に十分留意の上、学ぶ主体としての自覚をもった行動・姿勢を心がけてください。

以上